

方針1：ふるさと福井に誇りと愛着を持ち将来の福井を考える人を育てる「ふくい創生教育」の推進

- ふるさとの先人100人の生き方から学ぶ副教材の中学校・高校における活用を開始
福井ゆかりの百人一首等を題材とした古典暗唱・音読教材の授業における活用を開始
- 普通科系高校1年生が県内企業を訪問し、魅力を知る機会を新設
- 都会の生活と比較して福井の魅力を学ぶ副教材を活用したライフプラン学習を開始
- 地域人材コーディネート体制を整え、児童・生徒が自ら企画・提案する体験学習を拡大

方針2：夢や希望を実現する「突破力」を身に付ける教育の推進

- 小学校高学年の理科等に教科担任制、中学3年生の英語・数学に習熟度別学習を導入
- 「ふくい理数グランプリ」小学生部門、中学生対象の少人数「理数ゼミ」を新設
- 高校教員と教育研究所が連携して新たに県独自テストを実施し、授業改善に活用
- 数学・理科の授業進度を速めるとともに、授業後などにおける個別指導を強化
- 高校ごとの選択問題や英語スピーキングテスト導入など高校入試制度見直し方針を決定
- 大学進学サポートセンターを設置し、既卒生に対する学習指導や進学相談を実施

方針3：社会への参加を進め、高度な専門知識・技能を身に付ける教育の推進

- 高校生が選挙や政治の仕組みを学ぶため、副教材を活用した学習を充実
- 高校の生徒会が地域貢献活動の情報を収集し、ボランティア参加を促進
- 職業系高校生の資格取得を支援する「福井フューチャーマイスター」の認定を開始

方針4：グローバルな社会で活躍するための「使える」外国語教育の推進

- 中学生・高校生の外部検定受検を支援するとともに、校内スピーキング評価を実施
- 小学校教員を対象にNHK語学番組等を活用した研修会を新設
- 中学生がふるさとの魅力を英語で国内外に発信するとともに、ALTとの交流機会を拡充

方針5：福井の教育を支える教員の指導力をさらに向上

- 平成29年4月の教育研究所の移転・開所に合わせて機能強化を推進
- 双方向型の通信研修の導入や訪問研修の充実、若手教員育成など教員研修を見直し
- 若手教員が参加した自主研究グループを支援
- 部活動指導のあり方や校務事務の進め方などの方針を決定し、学校運営を効率化
- 高校における進学指導など実績ある退職教員の活躍の場を拡大

方針6：安全・安心でみんなが楽しく学ぶ学校づくりの推進

- いじめ・不登校対策として、スクールカウンセラーおよびスクールソーシャルワーカーの配置を拡充
- 全中学校において生徒の自主的なルールづくりを進め、ネットの適正利用を促進
- 特別支援学校生徒の職場実習等に協力する「就労サポーター企業」制度を新設
- 新たに作成した食育教材を活用し、小・中学校における食育の授業を増加

方針7：児童・生徒数の減少や社会の変化に対応した学校・学科の整備

- 丹南地区・二州地区の県立高校再編検討委員会を設置。サイエンスや国際に関する新学科設置を検討
- 双方向型の遠隔授業・研修システムの整備を進め、各学校における活用を開始
- 年数が経過した学校施設を対象に、計画的な長寿命化工事を開始

方針8：生涯にわたる学びを地域活動につなげる仕組みづくりの推進

- 福井ライフ・アカデミーに実践型講座を導入し、地域貢献につながる学びを促進
- 芦原青年の家を7月に開所し、地域資源を活用した新たな体験プログラムを実施
- 新たにPTAと連携した保護者向け家庭教育研修を開始

方針9：地域への愛着を深める芸術・文化活動や創作活動の充実

- 弦楽クラブ参加者を増やすとともに、児童・生徒が本物の芸術に触れる機会を拡充
- ふるさと文学、古典などを全小・中学校に巡回し、学校・家庭における読書活動を推進
- 著名作家等が指導する「ふくい文学ゼミ」を開催。修了者によるサークルを結成
- 白川静博士没後10年を契機に「白川文字学の室」をリニューアル
- 丸岡城の国宝指定を目指し、坂井市が行う建築年代の特定等の調査を支援

方針10：「福井しあわせ元気国体」の優勝を目指した競技力向上と国体の成果を活かした県民スポーツの振興

- 岩手国体における10位台前半の成績を目指し、オリンピック出場経験のある指導者などからの直接指導機会を増やすとともに、強豪チームとの練習機会を充実
- 「スポジョブふくい」等を活用し、日本代表級を含めた有力選手を確保
- 福井国体において少年種別の中心となる高校1年生の選抜チームを結成・強化
- 県民が気軽に参加できるスポーツイベントを全市町において開催